

～「メルトモの会 淡交」～

古川健一(昭和34年 政経卒)

パソコンの勉強会「メルトモの会 淡交」の発足は、14年前の「淡交会」(ゴルフ同好会)の懇親会がきっかけだった。

当時は、1995年に発売された米マイクロソフト社の基本ソフト(OS) Windows 95が世界中で大ヒットし、パソコンがワード、エクセル、Eメール、インターネットなどの新しい用語と共に、企業だけでなく、名実ともにパーソナル・コンピューターとして家庭へも浸透し始めていた。

2003年4月、「淡交会」の懇親会(於 八千代台「なのはな亭」)に、有馬邦彦さんが買ったばかりのノートパソコンを持参し「せめてコンペの案内ハガキは、自分で作成できるようにしませんか」という提案があった。「淡交会」もゴルフや飲み会だけでなく、会員増や活性化を図っていきたいという意図もあった。

提案を受けて「パソコンを習得して案内状作成だけでなく、Eメールの交換もしよう」「女性のメール友達を3人ゲットしたい」などの声上がり、六十の手習いで、パソコンの勉強会が10名程の会員で発足したのである。会の名称は鈴木榮三さんの発案で「メルトモの会 淡交」と決定した。

会長に選出された鈴木さんは、月毎に八千代台公民館で施設利用の申し込みを行い、勉強する場所の確保に努めた。更に、翌年4月に八千代台公民館サークルの登録を行い、市民サークルとして公民館を定期的に利用出来るようになったのである。

八千代台公民館サークルは、市民が誰でも参加できるサークル活動であり、稲門会員以外の市民数名の入会もあり、15名程で毎月第二木曜日午前中2時間の勉強会がスタートした。当初は全員が初心者のため、Eメール、ワード、エクセルなどの学習から始めたが、街のパソコン教室と違って専任の講師がいる訳でもな



く、市販の教材を利用して互いに手助けしながら学んだ。しかし、各自が学習したいという内容も多岐で、今でも全員が満足できる内容とは言い難く、試行錯誤を繰り返している。学習会で特に出席率が高いのは年賀状を作成する11月で、この時ばかりは夫人

同伴で出席する会員もいるほどである。

会の発足から10余年経ち、2017年度の会員数は18名である。今はパソコンを自在に使いこなす人も、新機種に不慣れで苦戦中の人もある。パソコンの利用状況は、メールと年賀状の作成だけ、趣味の写真やビデオの整理・編集に活用、



旅行のブログをアップしている、日々の血圧記録等のデータ管理をしている、家系図を作成した、株取引やネットオークションに利用しているなど様々である。ベテランの有馬さんは毎年、八千代台公民館祭の際に役員から頼まれて、舞台演技や作品を動画にまとめてy o u t u b eにアップして好評を博している。今年からは、月毎に会員が交代で講師を務めることにした。講義の内容は自由で、パソコンの活用法や便利なテクニックなど、パソコンに関連したことならなんでも良い。お互いの技能向上と、知識の共有に役立てばとの試みである。

今では、全員が「パソコンを覚えたい」から「パソコンは出来て当然」という段階になった？と思う。最近の話題で知ったのだが、パソコンを使えない新入社員がいて、企業の教育係が困っているケースもあるらしい。学生時代はスマートフォンやタブレットで十分用が足りたため、パソコンのキーボード入力が出来ないそうだ。今こそ、会員にとっては「(若い人に) パソコンを教えてあげる」といえる絶好のチャンスが到来したのかもしれない。

